

平成30年度第1回新発田市総合教育会議（会議録）

- 1 開催日時 平成30年10月29日（月曜日）
開会：午後1時 閉会：午後3時38分
- 2 開催場所 新発田市立猿橋小学校「1階合同学習室」
- 3 協議事項
 - (1) 新発田市いじめ防止対策等に関する委員会による報告等について（非公開）
 - (2) 英語教育の今後の取組について～新学習指導要領の全面实施に向けて～
 - (3) その他
- 4 出席者

| | | |
|----------------|-----|-----|
| 市長 | 二階堂 | 馨 |
| 教育委員（教育長職務代理者） | 関川 | 直 |
| 教育委員 | 桑原 | ヒサ子 |
| 教育委員 | 笠原 | 恭子 |
| 教育委員 | 小池 | 庸子 |
- 5 会議に出席した事務局職員
 - 市長部局

| | | |
|---------------|----|----|
| みらい創造課長 | 山口 | 恵子 |
| みらい創造課長補佐（参事） | 小林 | 克佳 |
| みらい創造課企画政策係長 | 山田 | 亮一 |
| みらい創造課企画政策課主事 | 齊藤 | 俊祐 |
 - 教育委員会事務局

| | | |
|--------------|-----|-----|
| 教育次長 | 佐藤 | 弘子 |
| 教育総務課長 | 山口 | 誠 |
| 教育総務課長補佐（参事） | 橋本 | 隆志 |
| 教育総務課長補佐 | 佐久間 | 与一 |
| 教育総務課学事係長 | 小室 | 貴史 |
| 教育総務課学事係主事 | 前畑 | 理枝子 |
| 学校教育課長 | 萩野 | 喜弘 |
| 学校教育課教育センター長 | 小坂井 | 博 |
| 学校教育課長補佐 | 飯塚 | 進 |
- 6 協議・報告事項の経過 別紙のとおり

1 開会 (13:00)

○山口みらい創造課長

それでは、ただいまより平成30年度第1回新発田市総合教育会議を開会いたします。
開会に先立ちまして、二階堂市長よりご挨拶を申し上げます。

○二階堂市長

ご苦労さまでございます。お集まりいただきまして大変ありがとうございます。

本年度に入って第1回目であります。今日は、猿橋小学校さんをお借りしての総合教育会議ということになりました。もう少し子どもたちの声が聞こえるかなと思って入ってきましたが、まったく聞こえない。「どうしたんだ」と聞いたら給食だということであります。私も小さいとき、「用を足すときと食事をするときには静かにやるものだ」と親に教わったことがありますので、そういう意味では静かに学校の給食を食べているということではありますが、それで結構であります。

まちづくりには、赤ん坊の泣き声と、子どもたちの歓声、そしてお年寄りの笑顔というのが何よりの活力源になる部分でありまして、きっと新発田市の子どもたちも、食事中はともかくとしても、休み時間等では大きな歓声を上げているんだろうなというふうに思っております。

本日は、二つほどテーマを用意させていただきました。一つ目は、残念でありますけれども、市内中学生の自死案件ということで、第三者委員会からの報告について。もう一つは英語教育についてということであります。

自死案件につきましては、第三者委員会から教育委員会に答申が出されました。その後の経緯については、皆様方ご承知のとおりであります。その中であって、教育長の辞任という大変残念な結末に至りました。言葉は厳しいかもしれませんが、やはり教育行政を預かる者として、その自覚が足りなかったのではないかというふうに言わざるを得ません。全国的には大変大きな話題になったということでもあります。

私自身も、三つの柱を掲げておりますが、そのもっとも重要な柱、通し柱と言っているのは「教育の充実」ということでもあります。私自身もこれを機により一層、気を引き締めて、そして二度とこのような悲劇が繰り返えされないように精一杯やっていきたいと思っております。

また、英語教育については、時代の流れなんだと思いますし、外国で活躍する若い日本人のプレーヤーなどが流暢に英語を使いこなし、そして、外国の選手としっかりコミュニケーションをとっている姿を見ると、まさに英語なんだと思わざるを得ませんし、楽天という会社では日常の公用語まで英語にしようとしている。そこまで来たのかということでもあります。やはり教育といえども、時代の背景というのを敏感に捉える必要があるということで、今日は、猿橋小学校の子どもたちの英語の授業の現場を見学できるということで、大変楽しみにやってきました。

いずれにしろ、長時間になると思いますけれども、活発なご議論をいただきまして、最後まで皆様方にいろんな意味で御意見を賜ればありがたいと思っております。

す。今日のご参集をいただきまして本当にありがとうございました。

○事務局（山口みらい創造課長）

ありがとうございました。

申し遅れましたが、本日の会議の進行を務めさせていただきます、みらい創造課の山口でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

会議の進め方についてご説明する前に、今、市長からのお話がありましたが、子どもたちがちょうど給食を食べております。このあとお掃除の時間に入るときに学校の校内放送が入るそうでございますが、若干、聞き取りにくくなるかもしれませんが、御協力よろしくをお願いいたします。

それでは、本日の会議の進め方についてご説明申し上げます。

初めに協議事項（１）として、「新発田市いじめ防止対策等に関する委員会による報告等」について協議をさせていただきます。

内容といたしましては、学校教育課長からこのたびの調査報告書の概要についてご説明をしたのち、委員の皆様からご意見をお聞きする形で進めてまいりたいと考えております。協議時間は４０分程度を予定しております。

なお、協議事項（１）につきましては、新発田市情報公開条例第７条第１項第２号に規定する「不開示情報」に関するものでありますことから非公開とし、協議事項（２）以降についてのみ公開することとしておりますので、予めご了承をお願いしたいと思います。

協議事項（２）「英語教育の今後の取組について」から公開の会議となるため、傍聴者入室いただきます。また、猿橋小学校の澁谷校長先生にも加わっていただき、１時４０分頃から公開の会議ということで予定させていただいております。

こちらにつきましても、初めに学校教育課から「新発田市の英語教育の現状、今後の方向性と課題について」の概要をご説明申し上げた後、３階の６年１組の教室へご移動いただき、午後２時から英語の授業を参観いただきたいと思います。

授業参観終了後、再びこの教室に戻っていただき、午後３時から、澁谷校長を交えて、フリースタイル形式で協議・意見交換をお願いしたいと思います。

それでは、ご説明が長くなりましたが、これより３の協議事項に入らせていただきます。新発田市総合教育会議設置要綱第２条の規定により、議長については二階堂市長よりお願い申し上げます。

○二階堂市長

それでは最初に、協議事項の進め方について、事務局から説明がありましたが、ご異議がなければ、そのように進めてさせていただきますでしょうか。

（「はい」との声）

協議事項（1）新発田市いじめ防止対策等に関する委員会による報告等について」の協議（非公開）

協議事項（2）英語教育に関する教育委員会の取組について

○山口みらい創造課長

若干時間が押しております。ここからは、澁谷校長先生、それから1名の傍聴者ということで、公開会議で予定をさせていただきたいと思っております。

【澁谷校長及び傍聴者（報道機関含む）入室】

○山口みらい創造課長

小坂井学校教育課教育センター長にお願いがございます。

説明時間を10分以内ということにさせていただいて、授業参観に影響がないようにご協力をお願いしたいと思います。

それでは、澁谷校長先生から一言御挨拶を頂戴したいと思います。

○澁谷猿橋小学校長

皆様こんにちは。

本日は、総合教育会議の会場に、当猿橋小学校においでいただき本当にありがとうございます。緊張感を持ちながらも、また皆様をお迎えすることを大変楽しみにしておりました。これからの英語教育ということで、市長様、教育委員の皆様からご覧をいただき、いろいろと御意見を賜れば大変ありがたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

○山口みらい創造課長

それでは、ここからの進行をまた市長をお願いしたいと思います。

○二階堂市長

猿橋小学校澁谷校長先生においでをいただきました。

本日は、お忙しいところ会場の提供をはじめ、授業参観にご協力をいただき、大変ありがとうございました。

それでは、「（2）英語教育の今後の取組について」の協議に入ります。

初めに学校教育課から「新発田市の英語教育の現状、今後の方向性と課題」について説明をお願いします。

○小坂井学校教育課教育センター長

私、学校教育課教育センター長の小坂井博と申します。よろしくお願いいたします。

これから授業を見ていただきますけれども、私が今回、皆さんに見ていただきたかった

ことについて、二つキーワードがあるので、そのことを頭に入れて二つだけ、頭に入れてお家に帰っていただけるとありがたいと思っています。

一つ目は、「主体的に学ぶ」、外国語を学ぶということです。意欲を持って外国語を学べるようになってほしいというのが、私たちの願いです。主体的に外国語を学ぶ意欲です。

もう一つは、英語でコミュニケーションが取れる力を育てる。ただ、私が英語を習っていた時には、「ディス イズ ア ペン」、「イズ ディス ア ペン?」、「これはペンですか?」などと、聞く人はいないことを一生懸命、何度も何度も言わされたり、書かされたりしてきましたが、全然使えません。

でもこれからの英語教育は、コミュニケーション力です。やり取りができるようになる子どもを育てたい。今日の授業もおそらくこの二つ。主体性、そしてやり取りができるようにすることを担任がALTと一緒にあって皆さんに提案をさせていただくことになろうかと思っておりますので、この二つを頭に入れて今日の授業を見ていただきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

○山口みらい創造課長

それでは、14時から授業が始まりますので、これから教室の方へご移動をお願いしたいと思います。

先ほどお配りした資料はお持ちいただき、その他の資料は私どもの職員がここに残っておりますので、ここに置いていっていただいても結構でございます。

ではご案内をお願いいたします。

(6年1組の教室へ移動)

協議事項(3) 授業参観(6年1組の英語専科教員とALTによる授業)

(合同学習室へ移動・休憩)

協議事項(4) 英語教育に関する協議・意見交換

○山口みらい創造課長

それでは、会議を再開させていただきます。

授業参観の前に予定していた、学校教育課の「新発田市の英語教育の現状、今後の方向性と課題について」のご説明について、小坂井学校教育課教育センター長からお願いいたします。

○小坂井学校教育課教育センター長

授業を見ていただいた感想はいかがでしたでしょうか。

意欲的な子どもの姿が見られたでしょうか。英語でコミュニケーションができる力が育っていると感じていただけたでしょうか。この2つのキーワードに従って少し説明をさせていただきます。

現行の学習指導要領、今回始まる新しい学習指導要領の前の学習指導要領のときに課題が出されました。一つ目が、外国語によるコミュニケーション能力を向上させなければいけないということです。話せないのは困りますということです。二つ目ですが、これは中学校、高校なんです、習ったことはできるけれども、その知識や経験を生かして目的や場面、状況等に応じて適切に表現することに課題がある。要するに、二つともコミュニケーション能力が不足していることを意味しています。それを受けて今度の新学習指導要領では、3年生、4年生は、「聞くこと」、「話すこと」を言語活動と言いますが、今日も「話すこと」を観ていただきましたが、それを通してコミュニケーションの素地を養うということになっています。

5、6年生は、そこに「読むこと」「書くこと」が加わります。今日もプリントに書いていました。それを通してコミュニケーションを図る基礎を作る。教科になりますので基礎ということになります。

中学校は、コミュニケーションを図る資質・能力を育成するというので、コミュニケーションそのものが目的になっています。そういうふうに段階を追ってコミュニケーション能力を育てていこうという骨組みになっています。

現在の学習指導要領の全面実施に向けた移行期間では、3、4年生で年間15時間、5、6年生で50時間ということで行っていますが、これが平成32年度以降の新課程になりますと、小学校3、4年生は35時間となります。

これは週1時間の割で行うことを意味しています。小学校5、6年生は外国語科という教科になって70時間行うこととなります。70時間というのは、週に2時間授業があるということです。

当然、教える教員の指導力の向上を図らなければなりません。現在、教育委員会では、このような取組を行っております。新発田市教育委員会の計画訪問では、必ずすべての授業、全学級を観ますが、その中で外国語活動を入れてくださいとお願いをして観させていただいております。

中学校の教員研修も行っております。全ての中学校の教員を対象に全体研修を1回、そして授業研というものを2回行っております。ALTの研修も行っております。東京の方から講師の方をお招きして研修を行っていますが、非常にALTの方々はやる気満々で、その機会を多くしてほしいという要望もあります。

(スライドを見ながら) これは研修ではないですが、公民館と一緒に夏休みにALTや留学生と遊ぼうということで交流会を行っております。これには小学生が50名参加をしたというふうに聞いております。

ALTですが、現在小学校には5名配置されております。そのうち4名が1日6時間勤務となっており、1名が有償ボランティアという形で1単位ごとに報酬が支払われるという状況です。中学校は4名のALTが配置されています。この方々には、年間に2、3回は小学校にも行っていただいております。ALTが実際に授業をやってみて、自分たちはどんなところで、子どもたちに良い影響を与えられているのかという手ごたえを聞いてみました。「外国人と直接触れ合えるということ」、今日も観ていただきましたが、「表情やジェスチャーが豊かになる」、「アクセント、発音が向上してジャパニーズ・イングリッシュ

ではなくなっていく」といったところが、ALTが実際にやっていて、子どもたちが手ごたえとして感じていました。ただ、こういったような課題も感じていらっしやいます。「担任間で差があるのではないか」という意見です。

子どもに聞いてみました。「明るく楽しく勉強ができる」、「英語がよく覚えられる」。そして「楽しい」といったような感想が聞かれます。

中学生に聞いた感想では、「英語で伝わるように話そうと思う」、「外国の人でも緊張しない」、「本物の英語でやる気が出る」、「外国の文化を知ることができる」ということで、先ほど私がお話させていただいた意欲ということとALTの方は非常に深く関わっているということがここからも分かると思います。

これは現場の先生に聞いてみました。「ネイティブな発音、生きたコミュニケーション、対話モデルを示せる」、「急な質問にも対応できる」、「『これ何ていうの』と聞かれてもALTの方は答えてくれる」、「外国の文化について説明してくれる」、「国際的な視野を持っているため、児童の夢が広がる」、「英語を勉強してみたいな、外国へ行って活躍してみたい」という夢が広がるんです。そして「笑顔が増えて楽しい」。

教育委員会はこのような取組がスムーズに、より豊かに行われるように6つのことを今後もやっていかなければならないと考えていますが、特に③番、⑤番、⑥番は大事なところだと思っています。③番の小学校教員の外国語に関する資質・能力の向上のための研修は、続けていかなければならない。そして先ほどもお話ししましたが、小学校では週2時間、外国語が行われることとなりますので、今のALTの人数ではとても賄いきれない部分も出てくるので、増員も考えていかなければならないということ。それとタブレット端末の活用ということです。

主体的に外国語を学ぶ意欲、そしてコミュニケーションをできる力の育成を目指しています。

今日、橘先生が授業をしてくださいましたが、この方は中学校籍の先生で、小学校英語専科教員として、昨年度から猿橋小学校に配属されております。今年度は住吉小学校と兼務して、子どもたちに英語を指導しております。授業のときに、笠原という男性の担任がおりましたが、笠原も校長先生のお考えで、その場に一緒にいて、橘の指導方法を学ぶ、研修の一環として、橘に任せっきりで、橘がいなくなった時に指導力が身に付きませんので、そういったことも工夫しております。

最後にタブレット端末の活用例ですが、これはちょうど今日と同じ單元ですが、タブレットを使って実際にやっている様子です。この顔、先ほどの授業の中でも、スマイルと姿勢と言っていました、見事に表れている写真ではないかなと思います。これは残念ながら新発田市の子どもの写真ではないんですが、このような活用方法があります。

そこで、私と飯塚でこの場面を再現してみたいと思います。

今日の授業はスピーチでしたが、二人のやり取りという設定です。私が行きたい外国、飯塚が行きたい外国に友達を誘って、「Y e s , L e t ' s (イエス、レッツ)」と言ってくればOKなんですが、「S o r r y (ソーリー)」と言われたら残念という設定です。だから、行ってもらえるようにプレゼンすることになります。

【小坂井教育センター長と飯塚学校教育課長補佐によるタブレットを使ってのプレゼンテーション開始】

【プレゼンテーション終了】

○小坂井学校教育課教育センター長

いかがでしたでしょうか。

タブレットについてですが、今日は自分でインターネットから出した画像1枚を使いましたが、自分が撮りたい画像をインターネットに直接つないで、画像を選んでそれを伝えたいというのは気持ちに乗ってくると思いますし、そういうことが可能になると思っておりますし、再現性があるということです。

○飯塚学校教育課長補佐

例えば、ALTの先生は毎時間授業に来られるわけではないので、こういうものをお願いして、こういったやり取りができるのかなと思っております。

○小坂井学校教育課教育センター長

これを一人一人のタブレットに送れば、自分で練習ができるようになります。それと、今日は最後に自己評価をしていましたけれども、その時にすぐにその場で撮ることができますので、タブレットで授業を撮影したものを振り返ってすぐ観ることができるので、自分で自己評価をしていましたけれども、友だちにその場面を撮ってもらって、それを見ながら自己評価もできます。練習の時にも撮ってもらって本番と見比べれば、どれだけ上手になったか自分自身でも見ることができるということで、今日のような授業も当然、大切ですが、タブレットを使うとこんなふうにコミュニケーションをする上でちょっと広がりが出てくるというか、そういったところが、子どもたちの意欲につながっていくのではないかと私たちは思っています。

どうもありがとうございました。

○二階堂市長

それでは、前段の教育委員会の取組、あるいは授業参観を踏まえ、委員の皆様からご意見、ご発言をお願いしたいと思いますが、その前に、澁谷校長先生から、先ほどの授業について、また、現在取り組んでいる英語教育の現状や課題、今後の計画等について、お話がありましたらお願いします。

○澁谷猿橋小学校長

今ほど小坂井教育センター長から英語教育の詳しい実態についてお話いただきましたので、私からは簡単にお話させていただきます。

今日の授業は「読む」「聞く」「話す」「書く」というところまで、今までの外国語活動から外国語科に変わって、「書く」ということが加わりました。ただ、今日の授業では、子ど

もたちが手元で書いておりましたが、「書く」というのは、まだ入ったばかりというところで、まずはコミュニケーション、「聞く」「話す」、そして言い馴れた言葉を書いているというのが今の小学校の現状だと思います。あまりガツガツやりますと、楽しく学ぶはずの英語が、英語嫌いの低年齢化を招いてしまつては、元も子もありませんので、そこは十分注意しながら楽しさを伝えていきたい。楽しくなければ授業じゃないよというスタンスでやっております。

それから当校は、橘恵子という中学校籍の者が英語専科教員という形で入っております、大変ありがたいです。下越では今年4人、全県では新潟市を除いて17人だと聞いておりますが、昨年とは少しニュアンスが変わりまして、昨年までは担任を指導するための加配だったんですね。だから私は、橘がいつまでも英語をやっているわけではないので、担任がとにかく自分で力を付けていかなければならないので、橘から学び、自分から、担任自身が英語の授業をできるようにしなさいということをして1年間ずっとやってきました。ところが、今年は働き方改革と少しリンクをしてしまつて、そうしないとなかなか文科省が加配をとれなかったという事情はあるんでしょうけれども、忙しい先生方の空き時間を作るための英語専科教員だよという言い方に変つたんです。ただ、それをやってしまうと昨年度、ずっと私が橘に言ってきたのに、先生方がいっさい担任に関わらないというのは、もったいないですので、先ほど小坂井センター長からのお話もあつたように、まるまる空き時間ではなくて、できるだけ授業を一緒に見たり、あるいは評価を一緒にやったりしながら、自分もある程度というふうなことでここまで来ています。

今後の見通しということですが、いま小学校の高学年が50時間、これが2年後には70時間にしなければいけませんので、私は段階的にやりながら60時間くらいに設定をしたいと思っています。橘も今、住吉小学校と兼務をしておりますので、住吉小学校と足並みを揃えながら、同じ子どもたちが猿橋中学校で同じ教育を受けて中学校で英語をまた学べるようにということで、足並みをそろえて指導計画を作っているということです。ただ、本格実施になりますと、教科書が新しく選定されたものになりますので、2年間作ってきた指導計画がどれくらい残せるのか、教科書がまったく変わつてしまつて、指導計画をまた一から作り直しになると、忙しい現場はなかなか大変だなと危惧をしているところであります。

以上です。

○二階堂市長

ありがとうございました。

それでは、委員の皆様からご意見、ご発言をお願いしたいと思います。初めに関川教育長職務代理者からお願いしたいと思いますのですが、よろしいですか。

○関川教育長職務代理者

私ども教育委員会でも、教育委員たちも、英語教育が導入される、充実を図っていかなければならないという命題にどう立ち向かわなければならないのかということで、今年、千葉の流山市と成田市に視察に行く予定だったんですが、本教育委員会としてちょっとし

た危機に見舞われまして、県外に出て勉強するのは少し控えさせていただくことになってしまいました。

事前に頂いた両市の資料を見てみましたら、やはりALTの積極的な活用というのが非常に重要視されています。ALTというのは全部同じかという一人ひとり全部違います。非常にいろんな個性をもっていますし、日本の教育に関する考え方も一人ひとり全然違います。先ほど、教育センター長がALTを集めて研修会をやっているということで、彼らをもっとやってくれと言っているというのは当然なんだろうと思います。やりたくてしょうがないんですね。自分たちはとにかく日本の子どもたちのために役に立ちたくてしょうがない。そういう意欲が満々でそれが普通です。たまにそうでない人もいて、そうでない人がいると現場は大変苦労します。そういう人も含めれば、やはり研修しなければいけない。そして日本の小学校教員、中学校教員も彼らと共に、あるいは彼らと別々でもいいんですが、それぞれが研修をして、力量を高めていかなければならないだろうと思います。

いずれにせよマンパワーが必要でありまして、さらに、タブレットのご紹介がございましたけれども、やはり有効性、有用性を見てしまいますと欲しくなります。

私は、タブレットの利用の仕方が非常に多様にできるものですから、有効な道具だと常々思っております。ですからこの2つ、マンパワーとICTのパワーを用いて児童生徒のために力を付けてあげたいと思います。

ただ、英語の時間だけを考えますと、澁谷校長からも話がありましたけれども、早期の英語嫌いを作ってしまう可能性がないわけでもないんだという点を、決して忘れてはいけません。やはり、全体的な新発田市の英語教育の構想の中で、国際理解とかそういうものを含めてどうやって進めるのかという、市としてはプランが必要なんだろうと思います。そのプランを実現するのにALTやタブレットなどをどういうふうにご利用していくことができるのか、お金がかかるわけですので、そのへんは市長さんにぜひ、英語を充実させるためにがんばってやろうという気持ちになってほしいと思っております。

○二階堂市長

ありがとうございました。

せっかくの機会ですからあとはフリートークでいかがでしょうか。

○桑原委員

楽しく授業を受けていたという印象を持ちました。

それは、ティモシー先生ですか、あの先生のキャラクターが大きく影響していたと思います。橘先生と笠原先生も上手に連携していました。その笠原先生については、澁谷校長のお話では、担任の先生が橘先生とALTとのやり取りの中から勉強していくということで、とても重要な試みだと思います。「読んでください」「話してください」「グループワークしてください」「前へ出て」「次の人は待機してください」といった表現はすぐに慣れてくるので、そのうちALTだけでも大丈夫になるのではないかと思います。

ここで質問しても仕方のないことですが、かなりパフォーマンス的なジェスチャーを付けていましたが、あれは英語の授業を楽しむということで、それはそれでいいと思うので

すが、英語を話すときのジェスチャーが本来あるわけですので、それも理解していかなければなりません。

私が一番気になったのは、最初に深いお辞儀をし、最後にも深いお辞儀をすることを先生が要求していました。実際に英語で外国の人の前で話をするときにそうした身振りが必要なのかということです。

二つ目の、このパワーポイントと小坂井主任参事のお話のことですが、まず、パワーポイントの中で、たぶん文科省の表現だと思いますが、「外国語教育」と書いてありますが、「外国語教育」ではありません。「英語教育」ですね。母語に対する外国語といったときに、英語しか想定しないのでは困ります。英語以外の多様な外国語も勉強する機会を与えるのかというと、そんなことは全く考えていないわけです。

最後に、タブレットの問題ですが、この写真はどこの学校のものですか、新潟県内の学校ですか。タブレットは本人の所有物なのか、それとも、学校か市が与えているものなのでしょうか。

○二階堂市長

市が教育委員会に予算付けして、学校に与えているんだと思います。

○小坂井学校教育課教育センター長

そのとおりです。

○桑原委員

わかりました。

外国語教育だけではなくて、タブレット端末を授業で使っていくことは、これからますます拡大していくことでしょう。ICT教育の導入です。授業で学んだことの効果を上げるには、タブレット端末を授業の中だけではなく、家でも使えないと意味がありません。例えば先生の発音練習を家で復習するとか、スピーチをやってみたものを親にも聴いてもらって、表現とか間合いといったものを直してもらったりとか、多様な活用ができます。プレゼンテーションをするときも言葉だけではなくて、先ほども紹介がありましたけれども、自分が紹介した国の何か、視覚的な情報をコンピューターから取り込んでくる、それを端末で見せながら紹介するなどいろんなことができるわけです。そのためには自由に使えることを前提として導入していくべきだと思います。その辺、それぞれの教育委員会、学校、あるいは他県ではどういう形にしているのか気になるところです。

以上です。

○二階堂市長

ありがとうございました。

小池委員。どうぞ。

○小池委員

主体的に学ぶ意欲とか、コミュニケーション、やり取りの力を付けるということは、外

国語活動のときに、単にりんごはアップルということの平行移動を教えるというところを超越して、自分の内面にあるものを何とかして相手に伝えるということで、さらにそこに少しアカデミックな要素が加えられて外国語化という教科として移行していくんだなというふうな意味で非常に興味深く子どもたちが、本当に5本くらいの文章を一生懸命書いてあったのを自分のものに消化しながら一生懸命発表して、それを全員の子たちが非常によく聞いていて、素晴らしい一つの授業提案だったと感銘を受けました。

それで今の子どもたち、より幼い子どもたちが大人になる頃には、自分の隣組に外国人がいたり、仕事の同僚が外国人だったり、そのイメージとしては私の頭の中は圧倒的に英語なんですけど、現実には、隣組の方が中国語だったり韓国語だったりするのかもしれませんが、いずれにしても自分以外の異文化を持っている外国人と臆せず関わるエネルギーを培っていくという意味で、外国語、先ほど澁谷校長のお話にもあったとおり、英語嫌いの低年齢化につながってしまうような存在にしないで、コミュニケーション、日本語以外のもので自分の言いたいことが伝わる喜びを体感する貴重な場、教科なんだというふうに前向きに捉えて進めていかなければならないと改めて感じました。

新発田は、月岡があり、各エリアに日本の文化をたたえた固有の文化財というか、財産を持っているときに子どもたちが日本人以外の人に臆せず伝えていくというのは、そういうコミュニケーション能力を持っている人たちが大人になったら、具体的にはガイドさんのような役目を行きずりの大人たちがぱっとできたらすごいことだと思うし、あるいは、工場も誘致すれば、その中で英語をある程度話せるか、話せないかというのも一つの市の財産になっていくのではないかと思います。

そうするためにも教職員の英語力、小と中、在り方は中学校はきっと英語の専門の先生方が、免許をもっていらっしゃるわけですが、それが無い小学校の先生たちがどれだけ英語力を、ALTに頼っていると絶対にALTが来る人数が限られているから、その教職員の英語力の向上というのが、喫緊の課題というか、一つの視点になると強く感じました。

自分の経験の中で、小学校の教諭でありながら英語に突出している、英語が好きな職員がいた職場とそうでなかった職場で、英語についての職員の関心、意欲が格段に違っていたので、今、新潟県でもそのように進めているのではないかと思います。各校に、英語専科教員もその一つの大きな具体的な例だと思います。とりあえず英語力のあるリーダー的な存在の人が、一人でも配置されるようなことがあると、大事な英語力を高めていく財産になると感じています。

同時に学校の内側からも子どもたちの意識改革を図るんですが、市民、大人が外国の方とどんどん交流する場を持って、外から英語を感化というか、入っていてもいいような時代に入りつつあるのではないかと感じます。

タブレットの個別化も備品として使うのもそうですが、もしかしたらそれが普及する頃はスマホとアプリとで、学校独自の、市独自の英語教育アプリとかがスマホで入手できるとか、そんなふうに変っていく時代になるのかなと思って、ある意味、タブレット、よく学校の中で親しんだのは、そういうことの活用で、例えばそれは公的なものに終わっても、私的なサービスもたくさんあると思うので、それを安全に選択できる子にしておけばいいのかなというふうに思っています。

○二階堂市長

ありがとうございました。
タブレットは英語だけなんですか。
他の教科にも使えるんですか。

○小坂井学校教育課教育センター長

あらゆる教科に活用できると思います。

○二階堂市長

そうすると桑原委員がおっしゃるように、家へ持ち帰ってやっていくということになると、私的所有ということになれば、例えばそこに補助金を付けて出すということはできるけれども、全額、買い与えるというのは到底不可能なわけですね。

○桑原委員

どれくらいスマホで対応できるかということですね。今学校の中で、スマホの持ち込みは許されていないわけですが、それをうまく授業の中で使っていけるといいです。児童生徒の多くはもう持っているのではないのでしょうか。

○二階堂市長

昨年度の市長査定の際、タブレットの予算を削ったのは私ですから、私に責任があるの
でしょうけれども、それほど強く要求されなかったのではないのでしょうか。
やり取りの中では早々と引き下がったのではなかったですか。

○萩野学校教育課長

昨年度の予算査定の時の実情を申しますと、学校教育課と教育総務課との連携が不十分
だったと思います。

○二階堂市長

そんな感じで、私の方が押し切ったような感じがします。

○萩野学校教育課長

そういった連携不足がありまして、今年度はそこをしっかりと取り組んでいこうと考
えています。

○二階堂市長

来年度はエアコンがあるから、相当大きな障害になると思います。

○萩野学校教育課長

そのところは重々承知の上で教育総務課と連携させていただきます。

○二階堂市長

英語の授業が年間50時間から70時間になっていくということは、どこかが減らなければならないわけですが、どこかを減らして増やすという意味なのですか。

それとも今の授業は残しておいて押し込んでいくということなののでしょうか。

○澁谷猿橋小学校長

1時間純増になります。

移行期間は、文科省も総合的な学習の時間を15時間削ってもいいと言っていますので、幸いと言ってはあれですが、総合的な学習の時間の中で日本語教育の時間がなくなりましたので、新発田市はそこを使って英語をやっています。今度、32年度からは、まったく1時間純増になりますから全ての曜日を6時間授業にするか、あるいは、朝学習の時間15分ずつを集めて1時間にするなどの工夫が必要になります。

○二階堂市長

そのことで英語が伸びるということは当然考えられるけれども、今までの学力テストを見ても小学校はよかった。その大きな力になったのは特区、日本語教育の影響もあったと思います。その時間が削られていくということは、英語は伸びるかもしれないけれども、基本的なベースのところは大丈夫なのですか。

○澁谷猿橋小学校長

国語教育の中で、日本語教育が今まで果たしてきた役割を、今度は国語の方で、短歌であるとか詩であるとか、そういう古典的なものが随分教科の中に入ってきましたので、私が学校教育課長の前任でありましたので、その時によりやく国の流れ、指導計画が新発田に追いついてきたわけです。

そのような認識で日本語教育の役割は終了してもいいのではという判断でした。そこは市長が心配されていることはクリアできると思います。

○二階堂市長

A L Tのマンパワーについて、先ほど関川先生がおっしゃっていましたが、足りないということは、いま新発田には何人いて、あと何人足りないのですか。

○飯塚学校教育課長補佐

A L Tについては、現在、小学校5人、中学校4人、合せて9人です。

○二階堂市長

現状はそうなんだけれども、足りないというのであれば、どの程度足りないのですか。

○澁谷猿橋小学校

当校の実情で言いますと、3、4年生が、いま外国語が15時間ありますので、そこを優先的に今日観ていただいたティモシーにすべて入ってもらっています。そうすると5、

6年生にすべてティモシーを入れることができません。5, 6年生は今、週1. 5時間あるんですが、1時間くらい、3回に2回の割合でALTが入っている形になっています。

○二階堂市長

ということは、もう1人くらい足せば何とかカバーできるということですか。

○澁谷猿橋小学校長

当校で言えばそうですが、市全体でみるとどうなのかはわかりません。

○飯塚学校教育課長補佐

今、だいたいクラスで考えると、週に1時間はALTの先生に来てもらえる状態です。ただ、先ほどの話で、5, 6年生は週2時間になると、単純に考えると2倍の人数が必要だと思いますが、今は6時間勤務なので、それを7時間勤務にして、少し給料を上げさせてもらえるのであれば、単純に2倍ではなくても、対応できるかなと思っています。

○二階堂市長

それは中学校1人、小学校1人という意味ですか。
もっと必要なんですか。

○飯塚学校教育課長補佐

小学校で言えば単純に2倍の人数が必要だと思います。

○二階堂市長

ということは、小学校は今5人だから10人必要だということですか。

○飯塚学校教育課長補佐

そうですが、先ほども言いましたように、今、小学校は6時間勤務にしてもらっている
ので、中学校と同じように7時間勤務にしたらと、1人あたりの持ち数をもう少し増
やすことができるので、そうすると単純に2倍も必要ないと思います。

○萩野学校教育課長

平成32年度からなので、そんなに全部が全部100%、ALTが入った授業にならない
いで、その分先生方の研修なども進めていったりしながら、われわれの方も財政を預かっ
ておりますので、純増にならないようにしていきながら、今後、31年度にしっかりとど
の程度の割合でALTを入れて授業をするかというところを検討させていただきたいと思
えております。

○桑原委員

いまのお話に少し付け加えますと、もちろん財政が豊かで、ネイティブの先生が全部の
クラスに付けられればいいですが、私自身は、変なネイティブ信仰というのは不要だと思

っています。

日本人の先生、今も担任の先生が一生懸命やっていました。児童生徒がネイティブの先生と接触できる時間をきちんと作っていけば、全部ネイティブでカバーする必要はないと思います。

発音は下手よりは上手な方が良いに決まっていますが、重要なのは、英語というスキルを使って、自分の言いたいことを相手に伝え、相手の言っていることがわかるようになることです。将来みんなが通訳になりアメリカ映画に出演するわけではありませんので。

そういう意味で、人間に代わる練習というのでしょうか、例えばネイティブの先生が吹き込んだものを端末で自己練習し、親御さんと一緒にやってもいいと思います。小学校だったら楽しいと思います。そのお手本の発音の真似をして、横で聞いている人がうまくできたねといったやりとりで、横にいる人も一緒に勉強するのも悪くないと思います。

すべてALTで埋めなければならないという発想はしなくても大丈夫だと思います。

○二階堂市長

タブレットの活用ということなんですね。無理して、マンパワーばかりではなくて、タブレットの活用によって、マンパワーの部分はある程度補完できるということですね。

○桑原委員

そうです。

まずは、タブレットをいつ入れるかということもありますので、先ほど澁谷校長もおっしゃっていたように、担任の先生も英語で教えられるようになるということが、大切だと思います。

タブレットについては、予算の問題などいろんな問題があると思いますが、こちらもよくあることですが、機材を買ったけれども、それを授業中に上手に活用できないことがあってはいけないので、技術的活用法や、どんなソフトがあるのかなど、事前準備をしたうえで導入だと思います。

○二階堂市長

教育委員会の方から何か発言はありますか。

○萩野学校教育課長

ALTについては、授業と勤務時間の増加とか、他市町村との取り合いになる可能性があるんですね。どこの市もALTを増やしたいと思っていますので。そのへんのところで、都市間のサラリーの問題が、どうしても彼らにも生活がありますから、サラリーが高い市に行ってしまうということも考えられるので、そういったことも含めて32年度に向けてわれわれの方も少し検討させていただいて、勤務時間の増加とそれなりの報酬という部分も、ALTに対しての報酬という部分も検討させていただいて、要望として上げさせていただきたいと考えております。

○佐藤教育次長

タブレットにつきましては、今、先生方でチームを組んで研究をしていただいております。その中で、パソコンを今まで使ってきた部分について、小学校については、タブレットに移行してもいいのではないかというお話もいただいております、間もなくその意見がまとまります。そういうものをすべて私どもの方で整理をして、新年度予算の査定の中で、しっかりとお相談をしていければいいと準備を進めていただきたいと思います。

○二階堂市長

中学校はパソコンで、小学校がタブレットということですか。

○佐藤教育次長

中学校もタブレットは必要なんです、パソコンも技術のために必要だと。これからの教育はプログラミングの考え方、その技術をすべて習得するのではなくて、課題解決とかプログラミング的思考を養うということで数学をやったり、いろいろな教科で使っていきましょうという考え方もあるようですので、そこは改めてしっかりと担当課長の方からご説明させていただきたいと思います。

○二階堂市長

他にございませんか。

特段ないようであれば以上で協議は終了いたして、よろしいでしょうか。

(「はい」との声)

○二階堂市長

活発なご意見をいただき、ありがとうございます。本日、皆様からいただき貴重なご意見は、今後の英語教育の取組に十分反映させてまいりたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。

それでは、「(2) その他」に入ります。

その他について、事務局及び委員の皆様から何かございますか。

○山口みらい創造課長

事務局からは特にございません。

○二階堂市長

ほかにないようですので、以上で協議を終了し、進行を事務局へ返します。

○山口みらい創造課長

活発なご意見・ご提案、大変ありがとうございました。

本日については以上で終了させていただきますが、前段、市長からの御挨拶にもありましたように来月、新発田市総合教育会議については、開催を予定させていただきたいと考えております。

日程が決まりましたら、改めてご案内をさせていただきたいと思います。

以上をもちまして、第1回新発田市総合教育会議を閉会いたします。ご協力大変ありがとうございました。

4 閉 会 (15:38)